

◆特別寄稿◆

## 私の図書業務を振り返って

宮岡千代子

私の図書室勤務は、名古屋第二赤十字病院入社とともに始まり、27年が過ぎようとしています。

入職した頃、図書室はちょうど新しくなった第一病棟の最上階フロア10階にありました。新設2年目の病診連携課と図書室の受付が同じエリアに配置されていたことから、兼務でのスタートとなりました。

病院図書室での勤務は初めてで、図書担当の方は既に退職されており聞く人もいない中、模索しながら図書業務をスタートさせたことを憶えています。

図書室の正式名称は古川記念医学図書館で、当時、扉を開くと木製の書棚・机・椅子が迎えてくれ、落ち着いた色調と空間が、利用者の心を癒し、環境面で最高の図書室と自負していました。

当時の図書業務は全て手作業で、他館に文献依頼するのも医学雑誌総合目録とIndex Medicusで所蔵先を調べ、文献申込書と通知書を一枚の紙にコピーして文献情報を手書きで記入し、その後依頼先にFAXで申込をする状況でした。

---

MIYAOKA Chiyoko

名古屋第二赤十字病院 図書室

TEL : 052-832-1121 FAX : 052-832-5309

miyao@nagoya2.jrc.or.jp

雑誌目録・書籍目録についても専用閲覧BOXを設置しており、専用カードに必要事項を記入し、利用者はカードで所蔵確認をしていました。そういう状況から最初の電子化として1992年に医学中央雑誌 CD-ROM 文献検索を導入し、1996年には、図書室に出入りしている業者に文献相互貸借の自動化、そして雑誌目録の自動化について相談、提案した結果、司書アシストの母体ができました。現在は何度かバージョンアップし、細部にわたり自動化され、病院図書室の規模では使いこなせないほどの内容が組み込まれています。

当院も司書アシストを導入し、図書室のホームページ等で利用していますが、所蔵目録、所蔵検索が簡単にでき、職員も検索等で利用しています。

2000年から図書業務のコンピューターでの管理化が始まりました。医学中央雑誌（医中誌 Web 版）の導入（2001年）、図書室ホームページのリニューアル（2002年）、洋雑誌の一部をオンラインジャーナルに切替えてホームページにオンライン目録を掲載（2003年）。

さらに2008年以降は日本赤十字社（以下本社）等の共同購入（コンソーシアム）に参加。洋雑誌・和雑誌のデータベースの普及に伴い、一層便利になり、当院も幾つかのデータベースを導入し、職員に提供しています。図書室は冊子体からオンラインへと大きく変化して

います。

病院図書室も幾つかの岐路がありました。入院患者さま専用図書室、会議室、専攻医室が、図書室内に併設され、自慢の図書室がどんどん狭くなっていきました。担当者として寂しい気持ちはありますが、これも時代の流れで仕方のない事だと感じています。

入社時、上司から日赤図書室協議会研修会があるから出席するように言われて本社に向いた事が、日赤図書室協議会を知るきっかけとなりました。その後は機会があれば研修会に出席させていただきました。研修会は、私にとって大きな情報源であり、他図書室の

方とのコミュニケーションの場であったことは、紛れもない事実です。

私の長い図書室勤務の中で、日赤図書室担当者の方々と出会えたことは、図書業務を行う上で大きな支えとなりました。そして、「日赤図書館雑誌」が刊行26年目であり、私の勤務とほぼ同じであることに何かの縁を感じます。私は2020年3月で定年退職となりますが、最後に日赤図書室協議会の今後の発展と「日赤図書館雑誌」の継続及び、皆様のご活躍、ご健康をお祈りしてお礼の言葉に代えさせていただきます。長い間、本当にお世話になりました。



図書室内